

存在感増す専門商社

原薬メーカーと医薬品メーカーの橋渡し役を担う専門商社。医薬品原薬（API）や中間体を国内外から調達し、さらに海外に広がる受託合成メーカーを駆使することで多様な需要に応えている。80%目標によって拡大が続くジェネリック医薬品（後発薬）市場だが、先発薬側も対抗策として新薬開発を加速しており、両市場で存在感が高まっている。ただ、こうした好環境は競争激化をもたらす。原料の安定供給、品質保証といった本

医薬原薬・中間体 市場動向を追う

来の役割を果たしながら、各社はニーズを取り込もうと差別化、高付加価値化戦略に動き出している。

高薬理活性に照準

今後の需要拡大が見込まれる高薬理活性医薬品市場。抗がん剤などを中心にニーズが高まるなか、その取り扱いには高活性ゆえの毒性を封じ込める高度な技術が要求される。そのため専門商社などは高活性物質に対応した受託合成メーカーと提携を強めたり、あるいは自社で対応設備を立ち上げるなどして成長市場の取り込みを進めている。



CCCの子会社・伊予薬（許容暴露限界）でレベ

コーア商事ホー ルディングスグループのコーアイセイは来月に山形市蔵王に高薬理活性注射剤の製造工場を立ち上げる（写真は3月時点の様子）
 ・1号機以下）と最高水準の設備を導入し、17年春の本格操業に着手した。OEL（許容暴露限界）でレベ ルアップまで段階ごとに

差別化戦略で需要つかむ

野村事務所は米サブ



4月20～22日 東京ビッグサイトで開催

独自の展開で強み

（S・B・H）では国内市場でトップシェアを握る。アンガス・ケミカルが世界で唯一、原料から一貫製造するトロメタモールは米国薬局方（USP）、欧州薬局方（EP）、日本薬局方外医薬品規格（JPC）の三極に適合する強みを持つ。イワキはグループ会社とシナジーを高め、海外マーケットの開拓に取り組む。岩城製薬が製造する原料や中間体で欧米先発薬メーカーからの受注を狙い、設備投資を実施。また製剤の輸入事業も視野に入れており、原料から製剤まで幅広く手掛けることで需要を開拓していく。

80%時代へ対応急 後発薬向けAPIは、80%時代に向けて今後さらに取扱品目の増加が見込まれる。そのため新日本製薬は今年にもGMP適合の医薬品製造管理システムを導入する予定。APIの入荷から出荷までを二元管理することで効率化につなげる。技術開発に磨きをかけて需要の取り込みを目指すのはコーア商事。昨年、APIの品質問題を検証する研究施設を立ち上げた。不純物除去、コスト削減、製剤化しやすいなど製剤メーカーの視点に立ったAPIの開発に取り組んでいる。